

10・27「施設再編整備計画の学習会」(1)

★☆☆松尾ゆり（杉並わくわく会議・杉並区議）さんのお話し★☆☆

河北病院移転と阿佐ヶ谷駅前開発

松尾さんの資料、レジュメにもとづいて、お話の内容を記していきます。

もともと、河北病院は建て替えの時期であり、また、この地域には河北病院施設が点在していて、かなりまえから、一つにまとめた病院の新築という構想が病院側にあったようです。そして「けやき屋敷」（所有者相澤氏）へ河北病院が新築移転することは、2年前2016年秋の区議会で自民党区議の質問から明らかになりました。

その後2017年5月、区は阿佐ヶ谷北東地区の開発計画をまとめました。それは、前年3月に杉並第一小学校の移転計画が確定したばかりというのに、驚くことに、半年も経たないのに全面的に覆すものだったのです。

区の改革は

- (1) 河北病院 → けやき屋敷に新築・移転（～2025年）
- (2) 杉一小 → 河北病院の跡地に移転（～2028年）
- (3) 杉一小の跡地 → 民間と区の共同で高層ビル建設（～2032年）

杉一小の跡地は、基本は民間ビルが建つものですが、ここに現在の商工会館など区の施設も建ちます。民間ビルは、オフィスビルなどではなく、やはり高層マンションではないかと言われています。

問題点は何か？

重要な情報が公開されない

計画は「土地区画整理事業」に基づいて行うものです。あの豊洲市場と同じです。

（土地区画整理事業については国交省のホームページによる解説があります）

松尾さんは、**土地整理事業**というものの“**闇**”を指摘しています。

○「個人（**区も個人!**）共同施工による土地区画整理事業」なので、

個人情報という事をタテに **情報が公開されない!**

区が行うのは公共事業であるのに、区を“個人”扱いにするので、情報が開示されない事が起こっている。すでに測量を行っている「けやき屋敷」の面積も開示されないし、土地価格の算定もしているはずなのに開示されない。

区の財産は、区民の財産であるのに開示するのが当然ではないでしょうか。

汚染地の交換は豊洲と同じ？

同じ区画整理事業で行われている“豊洲市場”は、東京ガス跡地の“汚染地”との交換という事が大きな問題を生じましたが、実は、東京ガスは「区画整理事業の複雑な仕組みを利用して何重にも利益を得ていました」。第1に、汚染された土地を東京都所有の土地と交換することにより利益を得ました。

第2に、汚染対策が万全に行われる前提で資産評価を行ったため、過大な試算評価を得ています。

第3に、汚染対策が不十分だと分かった時点で、都が追加対策を東京ガスに請求せず、放棄してしまったという事でも東京ガスは利益を得ているのです。こうした不公正は、「区画整理事業」という名の隠れ蓑で、

都民の目から隠されてきたと言えます。また、民間の汚染地と公共用地の交換である阿佐ヶ谷の区画整理事業と構図がそっくりだと、松尾さんは指摘しています。汚染地と普通地の交換は、まさに河北病院と杉一小学校との交換だからです。

⇒ (2) へ続く

文責 ノビス